令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
99	川崎市立長沢小学校	中西 恵子

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
はてな　　自分から考えて進んで学習する子 いっしょによにね　助け合い協力する子 すばらしいな　美しいものや生きものを大切にする子 がんばるぞ　いつも元気で明るい子 まけないぞ　責任をもってやりぬく子	～夢に向かって学ぶ学校～ 自己肯定感を土台とした主体的・探究的・利他的な子の育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・教育活動全体を通した自己有用感の醸成 ・一人一人の児童が「居場所」「拠り所」を感じられる学校

		評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
学び合う学校	1	授業改善 （能動的な学び）	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「探究的に学ぶ」授業改善を図り、「楽しい」「分かる」授業を目指す。	今年度から校内研究の方法を見直し、各自の目標設定のもと日常の授業の見合いや振り返りを通して授業実践を進めていくこととした。リーダー会の時間を研究部会にあてたことで効率よく進めることができた。新たな取組に挑戦できたことは成果である。自己研鑽、自己研修のスキルの向上や全体討議の方法については改善をしていく必要がある。	研究部会やグループでの協議の時間を確保しやすいような体制をつくる必要がある。授業と授業研究の往還がとられ、研究の成果が「楽しい」「分かる」授業につながることが実感できるようにしたい。授業改善部会の中の仕事分担を明確にして担当が何を行うのかを見えるようにする。
	2	授業改善 （カリキュラム・マネジメント）	地域や学校の特色、児童の実態を生かした体験活動を位置付け、「社会に開かれた教育課程」を編成する。	50周年や副読本の編纂を念頭に、地域の材やSDGs、キャリア教育を生かした単元づくりを生活科、総合的な学習の時間を中心に行い、カリキュラム・マネジメントに取り組むことができた。50周年の各学年の発表では、これまでの取組の成果を生かして、学習の延長線上での学校独自の表現活動を行うことができた。	地域を材にした学習を継続し、カリキュラムの充実に努める。次年度の課題である探究活動の充実を視野に、学習内容の充実を図っていく。
	3	授業改善 （基礎・基本の徹底）	基本的・効果的な指導や指導方法を共通理解し、徹底することを通して基礎・基本の定着を図る。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	ステップ2・3の実現を目指しギガ端末の効果的な活用（情報モラルを含む）を生かした授業改善を図った。ギガ端末の効果的な活用には課題がある。モジュールの活用や教育ボランティアの配置を図り、学年に応じた基礎的な知識・技能の定着を図り、効果が見られた。学習状況調査の分析を年間を通して生かしていきたい。	学習状況調査の課題を踏まえて年間を通して学校全体で書く活動の充実に取り組んでいく。今年度は「個別最適な学習」について職員研修を行い、意識を高めてきた。研修の成果を日々の授業で実践できるようにしたい。授業改善部会の学力向上担当が年間を見通した提案をして取り組むとともに、検証の機会を位置付けていきたい。ギガ端末の活用については引き続き課題である。ギガ端末の活用を目的にした授業改善の機会を設けていく。誰が何をするかという分担を明確にして、継続的な授業改善に取り組めるようにする。
元気あふれる学校	4	学級経営	規律ある学年、学級経営のもとで、規範意識と自己肯定感を土台とした自己有用感、自己効力感の醸成を図り、児童の多様な状況を生かした集団づくりに努める。	「違いを認め合い、みんなと共に生きていく力」「よりよい集団や社会をつくろうとする力」「なりたい自分に向けてがんばる力」を育成し、一人一人が居心地のよい学級づくりの充実に努めた。朝会等で多様性、寛容性について繰り返し話し、子どもたちの意識も定着してきた。学年タイムは工夫がみられるようになり、行事への取組や日常生活の見直しに効果的に活用されていた。	学年の取組を引き続き充実させ、学年経営と学級経営の連携を図っていく。朝会、児童朝会、学年タイム、児童集会の担当分掌を明確にして、学校全体が目指していく方向性を明確にできる機会として全校が集合する機会を計画的に活用していくようにする。
				学級目標の実現を目指して学級会、学級活動の内容を質的に高め、自発的・自治的で自浄力のある学級づくりに取り組んだ。また、その一員として「必要とされる」「役に立っている」ことを実感し、自己有用感、自己効力感を高めることを意識した。6年生の学力・学習状況調査では、「人の役に立ちたい」「社会や地域のために活動したい」の設問でのポイントが全国平均を大きく上回っている。学校評価でも児童の意識の向上を見て取れる。	学級目標が形骸化しないように、学級会担当に中間の振り返りを行うように計画させる。自己有用感、自己効力感を高めるためには、児童活動だけでなく学習の中で意識していくことが必要である。次年度は探究活動の充実の中で、自己有用感、自己効力感の醸成について併せて考えていくようにする。
	5	特別活動	特別活動を中心として子どもたちの創意を生かした自主的・自治的な活動を保障する。	児童の創意、発意に基づき見通しをもった係活動、当番活動、委員会活動、クラブ活動、代表委員会、行事の充実を図り、発達の段階に応じた自主的・実践的な活動を工夫した。一定の成果がある中で、児童の活動は活発になっているが、教員が次のステップを明確に共有し、具体的な活動を自発的に行っていくことが課題となる。	児童会と学級が連動して目標に向けて取り組んでいかれるように、学級会の実施が各学級で確実に行われるようにしていく。担当者が定期的に成果と課題を振り返っていく。また、自己観察書の教科外指導の目標に委員会とクラブの改善目標を明記させる。
	6	学級指導	心と体の健康や安全への意識を高めるために健康・安全・防災教育の推進を図る。	健康・安全（食事、体力、健康管理、交通安全、防災意識）と日常の生活を結び付け、自分の成長や安全、よりよい生活のために自発的、主体的に実行しようとする自己指導能力を育成した。避難訓練では、意識高く避難行動に取り組む様子が全校で見られる。食育では、栄養教諭の授業での学習が日常生活に継続されていかないことが課題である。給食の残量を減らす取り組みを行っていきたい。	食育の充実に取り組む。保護者と連携して、授業で行ったことを継続して食生活の見直しにつなげられるようにする。安全、防災教育については総合的な学習の時間の単元等と関連させながら、地域と連携した活動の充実を図りたい。校舎の回収に伴い、清掃の仕方を見直していきたい。
笑顔あふれる学校	7	児童指導	一人一人の児童の居場所づくりに努める。互いの違いを認め合い、尊重する寛容性を育み、助け合える関係づくりに努める。	不登校や登校しぶりの早期発見に努め、別室等を有効活用しながら個々の児童の状況に応じた対応や取組を迅速に行った。支援教育コーディネーターをはじめとした情報共有やケース会議が迅速に行われており、教員も協働体制がとれていることを実感できている。本校の強みであると捉えている。今年度より児童の寛容性、包摂性の育成を目指して支援児童が交流級で給食を食べるようにしてきた。取組としては成果がある。より一層定着して取り組んでいきたい。	特別な支援を要する児童について、適切な合理的配慮を行うことができるように、児童の見取りを客観的に行う資料をそろえて研修を行う。特別支援級と交流級の学習面での連携の充実を図る。学級経営を通して、一人一人の多様性を理解し、日常生活の中で寛容性、包摂性を育むことを目指す。
	8	効果測定、共生＊共育	不登校・登校しぶり、いじめの未然防止に向けて効果測定、共生＊共育、学校生活アンケート等の有効活用を図る。	効果測定や共生＊共育を活用し、学級経営の充実を図った。児童会を通した児童の発想を生かしながら、児童指導見直し強化月間・人権週間等の効果的な取組を年間を通して見通しをもって行った。人権朝会等の活動も定着している。日常生活での言葉遣いや友達との接し方について現状を把握し、トラブルの未然防止に努めていきたい。	別室の運営が各担任の学級指導に生かせるようにするために職員の共通理解を図っていく。担任、学年を中心に、支援教育コーディネーター、養護教諭、管理職等が支援しながらチームで問題対応に迅速に取り組んでいく体制をつくる。
	9	道徳・人権尊重教育・キャリア教育	人権尊重教育、道徳の授業と学校生活との関連を図り、道徳的実践力を高める。また、自分の成長を振り返ることを通して、夢や希望をもって学校生活を送ることができるようにする。	生活目標、保護者、地域の人・もの・こと等を活用し、道徳の授業を充実させるとともに、道徳で学んだことを学校生活で発揮することに努め、相手意識をもった道徳的実践力の向上を図った。また、キャリアパスポートを活用し、子どもの成長を家庭と共有してきた。朝会や集会を活用し、学校全体で生活目標を共有し、各学年の取組に生かそうとすることができた。土曜参観では、人権週間の取組として、児童会主導でいじめ防止に取り組んだり、道徳の授業を保護者に公開したりした。道徳の授業に よく取り組んでいる。	職員の人権感覚、人権意識を高める取組を日常的、継続的に行っていく。それぞれの指導について振り返り、意見交流する機会を定期的に位置付けていく。6年生が小学校生活の出口として将来について考えるキャリア教育を学校として整備していく。
信頼される学校	#	情報発信	学校の取組を効果的に発信し、保護者や地域の学校運営への理解と協力を仰ぐ。	学校の取組を保護者や地域に積極的に発信し、理解と協力を求めた。情報発信の手段として学校HP、学校だより、学校公開（T.T.保護者参加、外部講師等の工夫）、行事を有効に活用できるようにした。令和7年度より学校運営協議会を発足し、学識経験者等幅広い人材に協力を求めることができた。	次年度も授業を公開する機会をできるだけ実施できるようにしていく。取組の意図を具体的に伝えて実施の感度アンケートをとり、意見を反映させていくようにする。配信メール、HPを活用し、効率のよい情報発信の在り方を探っていく。学校運営協議会は委員を中心とした運営・進行となるように見直していく。
	#	学校評価	実効性のある学校評価を工夫し、外部からの意見を学校運営の改善に効果的に活用する。	学校運営方針と校務分掌の関連を明確にし、保護者や地域との協働を意識した学校評価を工夫した。学校評価のポイントは上がっているが、設問と学校の具体的な取組を連動させることが十分にできてないと感じている。	学校評価の回答率をあげる。「分かりにくさ」が回答のしにくさにつながっている面を見直し、教育活動の分かりやすさと回答のしやすさを目指す。
	#	外部人材の活用	外部の専門家等を活用して、求められる教育を工夫していく。	求められる教育の方向性を踏まえ、外部の専門家や講師、保護者ボランティアとの積極的な連携を図った。保護者ボランティアの協力を増やすことで、学校の取組へ協力する意識を高めた。	PTAや地域と連携して、保護者ボランティアの活用について共通理解し、基礎学力の定着を目標に、重点的な配置を行っていく。
	#	服務規律	教育公務員としての自覚を高め、働きがいのある職場環境の創出に努める。	児童理解の感度、人権意識を高め、不登校、いじめの未然防止、早期発見に努め、児童の範となる言動・行動に一層努めた。授業改善、学年・学級経営、学校運営の充実を通して同僚性を高め、学び合う職員集団としての協働体制の確立を目指した。職員会議で対話の時間を設定したり、自主考査を活用して内省の時間をとったりした。「ポジティブな行動様式」「リトリートメント」等、新しい教育の情報を職員会議で取り上げ、情報発信に努めた。職員がよく挨拶をし、児童の手本になっている。	全市的な動向を伝えて市の施策、教育委員会としての考え方の中に学校や自分の教育活動があることを考えさせる。内部統制等を活用し、職員相互で働きやすい職場の在り方について考えさせる。
	#	問題解決能力の育成	学校運営方針と学年・学級経営、自己目標との関連を図る。	学校運営方針を踏まえた学年・学級目標、グループ目標、個人目標と明確に設定できるよう工夫した。学校運営方針と校務分掌の連動を意識し、役割を明確にして、自己目標が設定できるようにした。学年経営案は学年での協力体制がよく意識できていた。	一人一人の役割が学校運営を担うという意識をさらに高めていく。失敗を恐れずに自分たちで考えて挑戦できるように校務分掌の単位を小さくし、経験の浅い教員もリーダーとなって役割を果たせるようにしていくが自分のやりたいことが明確にならない、具体的な手立てが講じられない職員にはより丁寧な説明や支援が必要である。重点課題について具体的な活動を位置付けていく。
	#	教員研修	学ぶ機会を的確に捉えて自己研鑽を図る。また、必然性を共有できる職員研修を主体的に企画・実施する。	必然性のある研修を主体的に計画、実施できる人的・時間的・物的環境を整えた。自主的な研修が行われ、学び合う姿が見られた。授業研究会にも多くの職員が参加するようになってきた。学ぶ意欲を保障できるようにしていきたい。	自発的な研修の機会を今年度同様に自分たちでつくっていことができるように支援する。小教研の授業参加がしやすいように調整する。
	#	組織の見直し・働き方改革	目的に向かって方法を創出できる、挑戦できる組織づくりを目指す。働き方改革・仕事の進め方改革の方向性を踏まえ、効率的な会議、事務処理の在り方・職場環境等を検討する。	話し合いの目的を明確にして、教職員の対話、議論するスキルを高めるように努めた。業務改善推進校として講師を招いて、業務改善について取り組んだ。一人一人が働き方改革の意識もってアイデアを出し合い、会議の効率化を図り、休憩時間の確保に努めた。大規模改修、創立50周年記念式典という大きな行事があったが、計画的に見通しをもって取り組むことができた。	会議の短縮には、職員の話し合いのスキルの向上が必要である。問題解決的な提案の仕方、話し合いの仕方のスキルは授業力向上へもつながると考える。一人一人のスキルの向上へのプロセスが仕事の効率化につながるという意識を引き続き高めたい。担当者からの意見を十分に聞いて、校務分掌の組織を見直していく。
	#	学校運営の体制づくり	全教職員で学校の児童全員の安全を守り、教育活動に関わっていこうとする体制づくりを推進する。また、学校運営協議会を生かして地域協力者の意見を学校運営の改善に効果的に活用するとともに、学校の課題解決に向けた応援を仰ぐ。	積極的な支援授業等指導体制の工夫・改善により、学校・学年・学級経営の充実を図った。3年生以上では交換授業が定着し、評価の負担軽減や学年全体で児童を見ることができている。今年度は学年のチームワークを高めることを課題としたが、学年主任がリーダーシップを発揮して成果をあげることができた。また、学校全体で児童を育てようとする意識が見られ、最外の職員も児童のためによく動いている。共通の意識をもって学校内が よく整頓されていることも、児童の落ち着いた学校生活に結びついている。	学校教育目標の見直しを図る。新しいかわさき教育プランを踏まえて、学校運営方針の重点を設定していく。

学 校 関 係 者 の 評 価	今年度の学校運営のまとめ ・ 次年度へ向けて
・学校の取組に対して、保護者が一定の評価をしていることが学校評価から分かる。 ・学力の面で学習状況調査等から、課題が見られるとのことだが、長沢小学校の子どもたちのよさを生かすことを大切にして教育活動を行ってほしい。 ・創立50周年の行事については、地域として協力してたいへんよい取組ができた。子どもたちが自分たちの力で地域をつくってく意識をもって、学習活動に生かしてほしい。 ・報道されていることから教職員の働き方や健康に懸念がある。子どもたちのために、教職員が笑顔で教育活動に取り組めるような環境づくりに尽力してほしい。	・全職員が学校運営方針をよく理解し、自分の役割をしっかりと果たすことを意識して教育活動に取り組むことができた。保護者からも一定の理解を得られていると学校評価の結果から分析している。成果が見られる点、課題となる点について、保護者の評価は妥当性がある。課題を丁寧の共有、分析して次年度の目標設定に生かしていく。 ・特に力を入れた児童活動では長沢小学校の子どもたちのよさである活動への意欲を生かすために、児童会を中心とした委員会活動や学級会を核とした学級活動に力を入れてきた。代表委員会が活性化し、児童を主体とする活動が活発になったことは成果である。話し合うことや協働して課題解決を図ることに好感度をもっている児童が多いことは、これまでの取組の成果である。 ・50周年の記念式典を中心とした様々な活動では、これまで取り組んできたことを生かして内容、運営共に充実していた。見通しをもって計画、推進できたことの成果である。 ・校内研究では、各自の授業改善への意識を高め、授業のユニバーサルデザインに向けた取組ができた。 ・GIGA端末を活用した授業改善、基礎・基本の充実は、力を入れて取り組んでいるが引き続きの課題である。授業改善と合わせて取り組んでいく。 ・一人一人の教職員の人権感覚を磨くことがあらゆる対応の根幹であると捉えている。教職員は温かい接し方や言葉かけを意識し、児童の寄り添った対応を心がけている。定期的に対応を振り返り、話し合ったことを還元することができた。 ・「働き方改革」が児童に笑顔で接するための方策であることを改めて確認し、教育活動の充実に向けて考えていきたい。 ・令和8年度も校舎の改修が行われる。教育環境の整備に引き続き取り組んでいきたい。